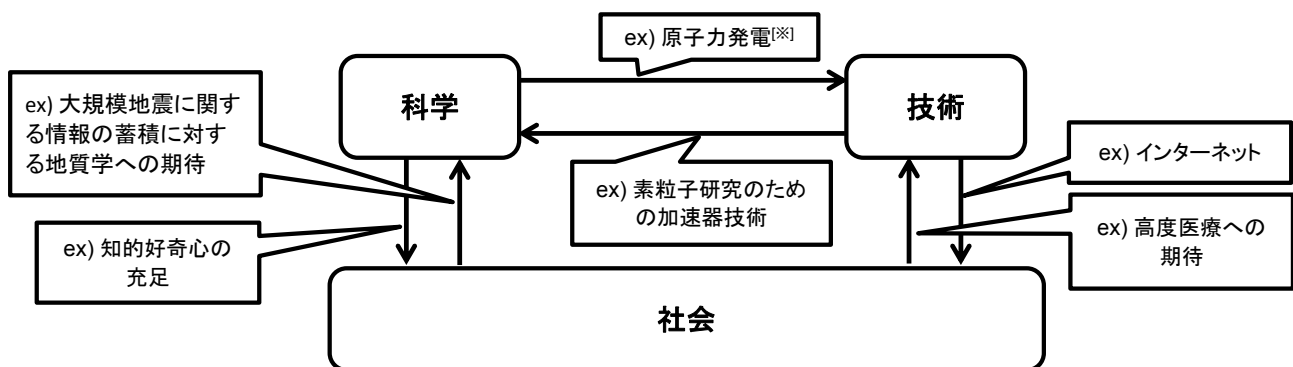


テクノ未来塾

第 154 回「ニューテクノ・フォーラム」in 京都 第二部討議テーマについて

1. 討議の狙い

柴田先生のご講演をトリガーにして、いわゆる『基礎科学』と社会との関わりについて考える（今回は、下図に示したイメージで考える）。



※『技術』は最終的に『社会』に関与する

討議にあたっては、以下の2点を指向する。

- (1) 一般論にとどまることなく、具体例を議論しながら各自が理解を深める。
- (2) 新たな価値創出に向けたアイデアをねん出する。

2. 本討議のゴール

- (1) 「天文学」、特に今回のご講演にあった「太陽に関する研究」が継続・発展的に我が国で推進できるようにするという目的を前提として、研究資金（維持費などを含む）の調達に向けた取り組みを4分間で提案する。具体的には以下の内容を含ませる。

①具体的に誰に向けて提案するか？

政策決定者（政治家）／各省庁・地方自治体（ナショプロ・補助金など）／市民（年齢層などターゲットを絞ってもよい）／民間企業（共同研究・寄付など）／その他・・・

②提案内容とPRポイント

③発信先が出資することにより受ける具体的利益（「精神的満足の獲得」も含む）

※本来は「納税者の立場からみて研究の推進はムダ」という立ち位置もあり得るが、今回はこの立ち位置での議論は行わない。

- (2) 他からも提案が多数出てくる（コンペになる）ことを想定し、実現可能性の議論の前に「面白い」と思わせて、一次選考を勝ち乗れるような「尖った」提案をするという点に今回は集中。したがって企業の意思決定では避けて通れないリスク回避や初期投資回収の議論などはいったん無視する

(これを気にしだすとアイデアが出なくなる)。ただし、公序良俗に反する提案および軍事がらみの提案はNG。

(3) 発表は各チーム4分(厳守)。

3. 進め方(状況を見て適宜軌道修正します。)

(1) 『科学』—『社会』および『科学』—『技術』(—『社会』)という観点でブレインストーミング的に思いつくままに挙げる。

★まずは質より量。

★これまでの知識・経験・想像力を総動員。

★柴田先生のご講演の内容も含んでよい。

★できるだけ『天文台』が関わる内容にする(単に「探査衛星を飛ばす」などは考えない)。

★未来予測があればベター(提案に結びつきやすい)。

★最初からグループ討議でも最初は個人で集中して取り組んで途中で内容を持ち寄ってもよい。

(2) 各グループで、これらの中から面白そうな切り口のものをいくつかピックアップして、それを軸にゴールを意識しながらさらにアイデアを広げる。

★ピックアップしたアイデアをどこまで膨らませられるかに集中。

(3) 議論をするうえで知りたい情報は柴田先生に質問(時間に余裕があれば途中で質問タイムを設けますが、時間的にタイトなら個別に質問する形にします。)

(4) 最終的にアイデアを4分以内でプレゼンできる提案の形でまとめる。発表ごとの質疑応答は行わない(最後にまとめて討議する)。

(5) 発表後は、時間の許す限りこれらを題材に討議をし、柴田先生の研究分野に関する我々の理解をさらに深めたい。

4. 班分け

※いろいろな分野のメンバーで各班が構成されるように設定(敬称略)。

【14.6.15 追記】講演の質疑応答が非常に活発で、討議時間がタイトになったため、講演時の着席順で班分けする方針に変更。

A, B, C, D, 4チーム

(配布資料に記載した班分け表はWEB掲載版からは割愛)

以上